

いじめの連鎖を断つために 心の“ホーム”を求める子どもたち

平成22年3月21日(日) 開催

★講師プロフィール★ きたむら としこ **北村 年子さん**

ルポライター、「ホームレス問題の授業づくり全国ネット」共同代表。1987年、デビュー作『少女宣言』（長征社）が話題を呼ぶ。女性・子ども・ジェンダーをテーマに活動を進め、近年は「いじめ」「野宿者問題」についての講演や、虐待防止・子育て支援のセミナー、自己尊重ワークショップなども精力的に行っている。2008年、「ホームレス問題の授業づくり全国ネット」を呼びかけ、共同代表となって立ち上げる。

著書に『「ホームレス」襲撃事件と子どもたち』（太田次郎社エディタス）、『おかあさんがもっと自分を好きになる本』（学陽書房）等。



★上映DVDの紹介★

「ホームレス」と出会う子どもたち 「ホームレス問題の授業づくり全国ネット」製作
「なぜ道ばたや公園で寝ているの？」…子どもたちが抱く疑問に、真正面から答える内容になっています。【本編 30分】大阪・釜ヶ崎にあるこどもの里の「子ども夜まわり」に参加する子どもたちの変化、ホームレス生活を送る鈴木さん（64歳）の仕事や生活、その思いに迫る。【応用編 45分】①本編にも登場する元・野宿生活者の男性（66歳）が子どもたちに語る人生。②「子ども夜まわり」の活動詳細。野宿の人との会話。子どもたちの夜まわりと学習会、はじめて夜まわり活動に参加する人の談話など。

※本編は1～2時間の授業で、応用編は3時間以上の授業での使用を想定。どちらも、子どもたちの胸に響く生の声で構成。ガイドブック付属（解説、小中学・高校用モデル学習指導案、関連資料）全52ページ。
※今講座では本編（30分）のみ上映します。

TOKYO人権43号（2009年9月号）より抜粋

「いじめの連鎖」を断ち切るために 何が必要なのでしょう？

いじめる側の心理をこう語ってくれた男の子がいました。「ぼくがいじめたくなるのは、いつも自分がつらいときでした。自分に価値があると思えないから、だれかを否定して攻撃することで、自分はましだと思いたくなります」と。彼もまた学校でずっといじめられてきた子でした。つまり、ありのままの自分を認められない、自分の価値がわからない、自分を大事に思えない「つらい心」が新たな暴力を生みだしている。

だからこそ「いじめの連鎖」を断つためには、格差・競争社会の変革とともに、個々の「自尊心」を高めることが大切だと気づかされました。だれが何と言おうと、自分には価値があると思えるのが真の「自己尊重」です。それは他者に対して優越感を持つ尊大な「自尊心」とは違います。不完全な自分があるがままに受け入れ、許し、弱い自分も含めて受容する。そして他人の尊厳も同じように大切に「I am OK, You are OK.」という等価の精神が、すべての命は等しく尊いという認識につながっていくのです。

▲▲▲ 必要事項をご記入のうえ、このままFAXでお送りください ▲▲▲

3月21日(日) 開催
人権問題都民講座

心の“ホーム” FAX申込用紙

(財) 東京都人権啓発センター 宛 FAX: 03-3874-8346

申込者のおなまえ

※ひらがなでお書きください。

さま

同伴者のおなまえ

※複数でお申込みの場合はひらがなで
全員のお名前をお書きください。

参加人数

計

人

FAX番号

ご所属

ご住所

【申込方法】 電話・Eメールでも申し込めます。Eメールの場合は件名に「心のホーム申込」と明記のうえ、必要事項をご記入ください。

FAX・Eメールの場合は返信をもって受付完了といたします。翌日までに（日祝を除く）返信がない場合は恐れ入りますが、お問い合わせください。

(財) 東京都人権啓発センター TEL: 03-3876-5372 FAX: 03-3874-8346 E-mail: info@tokyo-jinken.or.jp